



第59回日本PTA全国研究大会

おるじま大会

祝辞

文部科学大臣政務官

笠 浩史氏



本日、第五十九回日本PTA全国研究大会が、ここ広島県において...

正に「子どもは国の宝」ということを実感いたして...

このような状況を踏まえ、文部科学省といたしま...

入学時における、きめ細やかで質の高い指導が行われていること...

「みんなちがって、みんないい」

乙武 洋匡氏

全体会 記念講演

「五体不満足」を出版してから13年、現任は9歳の父となられた乙武氏が...

乙武氏が教員を自指したのは、数年前長崎県で12歳の少年・少女が起した痛ましい事件がきっかけ...



乙武洋匡氏

「五体不満足」の英語版「No One's Perfect」です...

話題は子どもを愛護してあげることを子どもが日々あはなうことです...

1. 子どもの一番の良さをみつけてあげること...

皆と同じ事ができないと無力感にとらわれてしま...

「五体不満足」の英語版「No One's Perfect」です...

■がんばろう日本！がんばろうPTA！

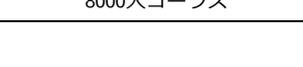
原田真二 復興支援 コンサート(Heart Aid)& 子どもたちとPTA会員による8,000人コーラス



原田真二氏

歌手活動のほか、心の環いがありません。そして、境整備されたチャリティ...

川会長から被災地協議会に義援金が贈呈され、全国の皆様にお礼と継続的な支援のお願い...



8000人コーラス

被災地へ被災地から

全体の会場、広島クリの雰囲気を感じた折り鶴の七夕飾りが飾られ...

被災地からのメッセージ



被災地からのメッセージ

# 分科会報告

## 第1分科会～第4分科会

### 第1分科会

#### 組織運営

### 語り合い、手を携え、より良い実践を見つけてよう

### 未来につながる希望のバトン。親として、そして何より人として。



基調講演 加来耕三氏

第1分科会は、「組織運営」をテーマに午前中は、歴史から学ぶ組織運営と題して、歴史家・歴史作家の加来耕三氏をお招きし講演を頂きました。時に、表に出る歴史でさえも都合良く書き換えられる事が多く、私たちPTAにも感ずられるように教えて下さいました。PTA的に言い換えれば「都合良く子育てをしてはいけない」と、指導して下さいました。また、人の意見・助言を聞くのも必要ですが、「自分溢れる藤波家の子育ての様子をうかがうことができずには、

実践発表では、スポーツや行事あいまの運動ノードレレディー等の実践を通じた親子のふれあいや地域連携が報告されました。いすれも子どもと向き合い、見守るという親の強い姿勢がうかがえる内容でした。パネルディスカッションでは、広島大学教授 林孝氏をコーディネーターとして、PTA・PTA・PTAの活動実践発表、呉市教育委員会の推し進めている「小中一貫教育」の実践発表。その後、広島大学小原教授のコーディネーターのもと「小中一貫教育の可能性」と題してPTA・教育委員会・日本PTA・教員の色んな立場でのパネルディスカッションが行われました。単に「小中一貫教育」の紹介又は議論するだけでなく、未来を担う子どもたちに向けてのメッセージも込めて、今あるべき現状を見据え、私たち大人が伝えていかなければならない過去、現在、未来について、会場と一体となり語り合えた分科会となりました。

### 第3分科会

#### 学校教育

### 子どもたちに「たくましく生きる力」を育む 社会の実現をめざして

### 市民協働で今種をまく時



実践発表 やっさ踊りの一場面

軽快なリズムに合わせ、子どもたちの愛らしいバトンの舞いで分科会は開幕しました。研究領域「学校教育」のもと、研究テーマを「子どもたちにたくましく生きる力」を育む社会の実現をめざして、市民協働で今種をまく時」と定め研修は進みました。先ず、午前の基調講演で、脳科学の視点から「生きる力」と何か、そしてそれを育む脳への働きかけを、どのように行えば良いのかを楽しく学ばせていただきました。昼食には、地元高校生が全国から越越しの参加者のため、数日月の時間をかけ考案した郷土色豊かなお弁当が皆様に歓迎の気持ちを込めて提供されました。

最後のパネルディスカッションでは、文部科学省・教育委員会・学校・PTAそれぞれの立場から「道徳的価値の育成に向けて何が必要か」「伝統文化の継承と発展を通して学校・家庭・地域の連携を深め、地域・地域の教育力を再生するために何が必要か」について熱い討論が交わされました。今後の学校教育・PTA活動のための良い研修となりました。

### 第2分科会

#### 家庭教育

### 「かかわるや、たのしむや、子どもたちと」



基調講演 藤波辰爾氏と奥様

『かかわるや、たのしむや、子どもたちと』の関わり方を中心にすえた分科会運営でした。基調講演は、プロレスラーであり、青少年育成活動の実践者としても知られている藤波辰爾氏にお話ししました。家庭では、二児の父親でもある藤波氏が、

「藤波流子育て」と題して、成長してゆく子どもたちの関わり方、子ども達の夢や希望を後押しする夫婦のあり方を語りられました。途中からは会場にいらした奥様も壇上に招いて、ご夫婦から思いやりに

多くのスタッフにより、温かみを感じたい印象的でした。多くのスタッフにより、温かみを感じたい印象的でした。多くのスタッフにより、温かみを感じたい印象的でした。

### 第4分科会

#### 広報活動

### 効果的な広報活動の確立のために

第4分科会(三次市文化会館)において、効果的な広報活動の確立のために、研究主題に開催しました。例年第一分科会では、日P広報紙「コンクール」が午前中行われておりましたが、今年度から日P大会での表彰は取り止めとなり、他の分科会と同様の日程で開催となりました。基調講演では、ウイオラ奏者の沖田孝司氏による「伝えあつ」をテーマに、ウイオラを弾きながら優しい口調でコミュニケーションの

大切さ、お互い伝えあうこと、の素晴らしい話をされました。午後からは実践発表として、第三十回全国小中学校PTA広報紙コンクールで特別賞(写真賞)を受賞された福原興出雲町立高小学校・同じく佳作として、今大会において特筆すべきとは、平日開催ということ、最大限のおもてなしができたことです。全スタッフ七十名が、六、四七名の参加者をおもてなす

発表に対しての講評・助言、並びに「身近な存在であり続けるために」地方紙の取組と題して講話がありました。最後に、日P前環境対策委員長の石田昭博氏から「子どもメディア」に関する意識調査の結果報告がありました。

今大会において特筆すべきとは、平日開催ということ、最大限のおもてなしができたことです。全スタッフ七十名が、六、四七名の参加者をおもてなす



基調講演 沖田孝司氏

お迎えすることができ、大会も大成功をおさめることができました。最後になりましたが、参加された皆様、運営いただいた実行委員の皆様には心より感謝申し上げます。

参加された皆様、運営いただいた実行委員の皆様には心より感謝申し上げます。



特別第1分科会

有害情報から子どもたちを守るために

子どもといっしょに考えるケータイのより良い使い方



基調講演 尾花 紀子氏

特別第1分科会報告
内閣部から沿岸部までの美しい自然環境や豊富な歴史・文化資源を有する東広島市...

「持たせない」ではなく、「持たせたい」... 有害情報から子どもたちを守るために... 尾花 紀子氏



貴重なお話しがあったパネルディスカッション

- 基調講演 尾花 紀子氏 (ネット教育アナリスト)
○実践発表 長谷川 陽子氏 ((有)willさん代表取締役)
○パネルディスカッション テーマ/子どもといっしょに考えるケータイのより良い使い方...

特別第2分科会

「生きる力」親が育て 学校が磨き 地域が鍛える

今、求められているキャリア教育・職業教育



コーディネーター 渡辺三枝子氏



基調講演 松崎運之助氏

「命の光を大きく輝かせるために」... 松崎 運之助 (まつざき みちのすけ) 元夜間中学校教諭

「生きる力」親が育て 学校が磨き 地域が鍛える... 渡辺三枝子氏

- 基調講演 「命の光を大きく輝かせるために」 講師 松崎 運之助 (まつざき みちのすけ)
○基調提案 「キャリア教育・職業教育の推進について」 提案者 山下 恭徳 (やました やすり)
○実践発表 「夢や希望を育む、キャリア教育の創造」 発表者 立田 晃一 (たてだ こういち)
○パネルディスカッション 「学校・家庭・地域連携によるキャリア教育・職業教育の推進について」

次期開催地は京都

いのち ところ ゆめ

～伝えよう つなげよう 育もう～

平成24年8月24日(金)～8月25日(土)



京都大会 第60回日本PTA全国研究大会 第38回日本PTA近畿ブロック研究大会

第33回全国小・中学校PTA

広報紙コンクール入賞作品決定!

文部科学大臣賞受賞広報紙

《ひろぎ》鹿児島県鹿児島市立広木小学校 P T A
《はるひの》神奈川県川崎市立はるひ野小中学校 P T A

8月16日、日本PTA全国協議会において、第33回全国小・中学校PTA広報紙コンクールの最終審査が行なわれ、入賞作品が決定した。

審査対象は、平成23年度中に発行された広報紙のうち、2回以上発行されたもので、今年度の応募総数は5865校、小学校4083校、中学校1782校、各地方協議会の第1次審査の後、日本PTA全国協議会における第2次・第3次審査、そして最終審査を経て、PTA広報紙の持つ目的、使命、記事、編集、レイアウト、見出し文章などの評価が総合的に優れている、小学校、中学校21校の計校の広報紙作品が受賞の栄冠に輝いた。



審査風景

入賞校の表彰式は、11月22日の日本PTA全国連絡協議会年次総会にて行なわれる。

【小学校の部】

「定番」テーマも切り口に工夫
日本教育新聞社編集局 報道部長 矢吹正徳

今回の応募作品も力作が揃いました。ページ数形態などは異なるものの、PTAの日頃の活動を伝え、子どもたちの活動の様子を上手に紙面に盛り込んでいます。小学校では今年4月から新しい学習指導要領が全面実施されています。その前年度に発行した広報紙ですが、新・学習指導要領

【中学校の部】
広報紙コンクール講評
教育家庭新聞社 社長 菊池清広
コンクール入賞おめでとうございます。そして今回約6千校近くの全員の参加PTAの皆さん、感謝と敬意を表します。PTA活動の中でも最もきつくて難しいイメージされがちな広報委員を、無事に務めて広報紙発行の責任を果たされた、その努力には、家族や周囲から、大いに賞賛されてしかるべきだと口喧思っています。

【中学校の部】

「定番」テーマも切り口に工夫
日本教育新聞社編集局 報道部長 矢吹正徳

今回の応募作品も力作が揃いました。ページ数形態などは異なるものの、PTAの日頃の活動を伝え、子どもたちの活動の様子を上手に紙面に盛り込んでいます。小学校では今年4月から新しい学習指導要領が全面実施されています。その前年度に発行した広報紙ですが、新・学習指導要領

【中学校の部】
広報紙コンクール講評
教育家庭新聞社 社長 菊池清広
コンクール入賞おめでとうございます。そして今回約6千校近くの全員の参加PTAの皆さん、感謝と敬意を表します。PTA活動の中でも最もきつくて難しいイメージされがちな広報委員を、無事に務めて広報紙発行の責任を果たされた、その努力には、家族や周囲から、大いに賞賛されてしかるべきだと口喧思っています。

【小学校の部】

「定番」テーマも切り口に工夫
日本教育新聞社編集局 報道部長 矢吹正徳

今回の応募作品も力作が揃いました。ページ数形態などは異なるものの、PTAの日頃の活動を伝え、子どもたちの活動の様子を上手に紙面に盛り込んでいます。小学校では今年4月から新しい学習指導要領が全面実施されています。その前年度に発行した広報紙ですが、新・学習指導要領

【中学校の部】
広報紙コンクール講評
教育家庭新聞社 社長 菊池清広
コンクール入賞おめでとうございます。そして今回約6千校近くの全員の参加PTAの皆さん、感謝と敬意を表します。PTA活動の中でも最もきつくて難しいイメージされがちな広報委員を、無事に務めて広報紙発行の責任を果たされた、その努力には、家族や周囲から、大いに賞賛されてしかるべきだと口喧思っています。

おめでとう！ 広報紙コンクール入賞校

Table with 3 columns: Award (賞), Elementary School PTA Department (小学校PTAの部), and Middle School PTA Department (中学校PTAの部). Lists winning schools and their publications.

県民自慢 長崎県PTAシリーズ65 親育ち・子育てのためのPTA活動を

長崎県PTA連合会会長 宮崎 孝二

長崎県PTA連合会 親育ちのために、県内17郡市のPTA連合会で組織され、会員は、PTA活動のり約10万人を超える超大型団体です。昭和24年に結成されたが裾野を広げ、今日まで会員の研修や子どもへの健全育成活動を通して、長崎県教育の充実・発展に寄与してきました。一方、社会環境の急激な変化に伴い、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、子育てが難しい時代になっていくも言われています。このような状況の中で、親育ちと「子育て」をいかに図っていくかが、PTAに課せられた今日的課題になっています。また、公立高校PTA・私立中学高校PTA・公立幼稚園PTA・国公私立幼稚園協会など、子どもたちにかかわる組織と連携した横断的な活動の二面から主に以下の活動に力を入れていきます。また、公立高校PTA・私立中学高校PTA・公立幼稚園PTA・国公私立幼稚園協会など、子どもたちにかかわる組織と連携した横断的な活動の二面から主に以下の活動に力を入れていきます。

親育ちのための研修事業
◆子育てのための活き活きかきかき事業
現代の子どもは、急激な社会の変化に伴い、人間関係の希薄化や生活体験の乏しさが指摘されています。そこで、多様



母親委員会



# 各ブロック大会のお知らせ

## 北海道ブロック

### 札幌大会

《10月1日・2日》

●大会スロガクン

あったか大人 頼れる大人、子どもともに地域ととも

●記念講演

演題「いよいよ必要な親力をとどけ」

講師 親野 智司等氏

●会場・全体会

札幌コンベンションセンター

分科会

ロートン札幌

東北ブロック

秋田大会

《9月18日》

●大会主題

がんばろう 東北PTA

美の国 詩の国 秋田で語ろう P T Aを子どもたちのために いまできること これからのこと

●記念講演

演題「今、P T Aに求められている」と

講師 春 やす氏

●大会会場

秋田市文化会館

●会場

石原家における親の役割

講師 石原 良純氏

●会場・全体会

ホクト文化ホール

分科会

長野市若里市民文化ホール他3会場

●平成24年9月11日

●記念講演

演題「どうして勉強しなきゃいけないの？」

講師 尾木 直樹氏

●大会会場

愛知県体育館

分科会

フイルあい他4会場

●大会スロガクン

「子どもたちに伝えたい幸せになる3つの法則」

講師 木下 晴弘氏

●会場

福知山市三段池総合体育館

分科会

福知山市武道館

他会場

●11月27日

●大会スロガクン

「子どもを聴こう！ あったか愛情で育む子育て」

●基調講演

## 近畿ブロック

### 京都府大会

《10月16日》

●大会スロガクン

「子どもたちのドッコイ」

講師 市川 伸一氏(予定)

●会場未定

●記念講演

演題「子どもたちに伝えたい幸せになる3つの法則」

講師 木下 晴弘氏

●会場

福知山市三段池総合体育館

分科会

福知山市武道館

他会場

●10月22日・23日

●大会スロガクン

心をつなげよう！

希望、そして未来

●記念講演

演題「君の笑顔がみんなを幸せにする」

講師 川原 尚行氏

●会場

西日本総合展示場

分科会

若狭劇場他6会場

●10月28日・29日

●大会スロガクン

「心響き合え 愛と知恵の架け橋」

講師 尾木 直樹氏

●会場

愛知県体育館

分科会

フイルあい他4会場

●10月21日・22日

●大会スロガクン

「信州についでつらなる子育ての輪」

講師 春 やす氏

●大会会場

秋田市文化会館

●会場

石原家における親の役割

講師 石原 良純氏

●会場・全体会

ホクト文化ホール

分科会

長野市若里市民文化ホール他3会場

●平成24年9月11日

●記念講演

演題「どうして勉強しなきゃいけないの？」

講師 尾木 直樹氏

●大会会場

愛知県体育館

分科会

フイルあい他4会場

## 九州ブロック

### 北九州市大会

《10月22日・23日》

●大会スロガクン

心をつなげよう！

希望、そして未来

●記念講演

演題「君の笑顔がみんなを幸せにする」

講師 川原 尚行氏

●会場

西日本総合展示場

分科会

若狭劇場他6会場

●10月21日・22日

●大会スロガクン

「信州についでつらなる子育ての輪」

講師 春 やす氏

●大会会場

秋田市文化会館

●会場

石原家における親の役割

講師 石原 良純氏

●会場・全体会

ホクト文化ホール

分科会

長野市若里市民文化ホール他3会場

●平成24年9月11日

●記念講演

演題「どうして勉強しなきゃいけないの？」

講師 尾木 直樹氏

●大会会場

愛知県体育館

分科会

フイルあい他4会場

●10月28日・29日

●大会スロガクン

「心響き合え 愛と知恵の架け橋」

講師 尾木 直樹氏

●会場

愛知県体育館

分科会

フイルあい他4会場

●10月21日・22日

●大会スロガクン

「信州についでつらなる子育ての輪」

講師 春 やす氏

●大会会場

秋田市文化会館

●会場

石原家における親の役割

講師 石原 良純氏

●会場・全体会

ホクト文化ホール

分科会

長野市若里市民文化ホール他3会場

## 笑顔あふれる学校づくりを目指して

はじめに

本校は、目黒区の南西に位置し、緑豊かな住宅街にあります。学校周辺は八雲、東が丘、柿の木坂などの住宅街ですが、校区は自由が丘駅周辺も含み、おしゃれな商店街やマンションがあり、また、近隣にはさまざまな区民キャンプや都立駒沢オリンピック公園まで数分という恵まれた地であり、その環境や施設を、行事や部活動で利用しながら、学習に運動に励んでいます。

本校は生徒数が358名の規模校ですが、少子化が進んでいる目黒区では、この規模でも区立中学校10校中3番目に大きな学校です。長年培

はじめて

本校は、目黒区の南西に位置し、緑豊かな住宅街にあります。学校周辺は八雲、東が丘、柿の木坂などの住宅街ですが、校区は自由が丘駅周辺も含み、おしゃれな商店街やマンションがあり、また、近隣にはさまざまな区民キャンプや都立駒沢オリンピック公園まで数分という恵まれた地であり、その環境や施設を、行事や部活動で利用しながら、学習に運動に励んでいます。

の取組は、平成17年度から行われ、平成18年度(心の東京)をテーマとして、事業として都立PTAで発表され、翌年には「都立PTA青年育成協力団体」として表彰を受けました。

あいつ運動の標語やポスターは子どもたちが作り、年2回各一週間行なう「あいつ運動」には、のべ1000人以上の生徒・保護者・地域・教員の参加があります。

また、中学校区毎に「地域教育懇談会」という組織があり、小中学校関係者、PTA関係者、青年委員などが集まり、各地区で特色ある実践を行っています。本校区の地域教育懇談会の特色ある取組は、「4校一者あいつ運動」です。最初は、小中学校の校門で行なわれていた「おはよう」なで育てるために力を発揮しています。

「おはようございます」の声が自然と出てきます。このように、PTAが校内の活動を実践しつつ、地域の団体と協力して地域の子どもをみん

で育てるために力を発揮しています。

今号は、第9回日本PTA全国研究大会としておきます。他、広報紙コンクールの審査報告や文部科学省の特長を数多くの記事が掲載されていますので活用してください。

また、各地区のプロック大会もこれらの開催が多いので、是非参加して頂けたらと思います。

編集委員一同、皆様により良い情報をお伝え出来ますように、これからも紙面作りを努力していきます。

編者

編者